

【連載】

老健仕事人  介護福祉士

# その人らしく暮らすために 私ができること



北川 誠治 [きたがわ・せいじ]

介護老人保健施設アロフェンテ彦根（滋賀県）

## はじめに

私の勤める医療法人友仁会の老健施設「アロフェンテ彦根」は、滋賀県彦根市の琵琶湖のほとりにある施設です。彦根市の高齢化率は26.4%で、今後も上昇すると推計されており、介護の需要はますます高まっています。

当法人は1998年9月に、地域医療の拠点であった病院に、老健施設を中心とした介護部門を併設し、現在は、入所、通所リハビリ、訪問看護、通所介護、看護小規模多機能型居宅介護、居宅支援センター、地域包括支援センターを運営しています。当施設は彦根市唯一の老健施設であり、在宅復帰支援を実践する超強化型老健施設として、他の医療機関や介護サービス事業所と連携し、地域住民の暮らしを支える一翼を担っています。施設理念の「住み慣れた地域で、その人らしく生きるために、多職種協働して、平穏な暮らしを支える」を念頭において、その人らしく、また、住み慣れた地域で生活していけるようさまざまなサービスを提供しています。

私は2011年に当施設に入職しましたが、それまでは介護の仕事に携わっておらず、異業種からの転職でした。入職時は療養棟に配属となり、当初はなかなか仕事に慣れず戸惑うことも多くありましたが、上司・先輩職員の助言や同僚職員の支えもあり、経験を積みながら日々がんばってることができました。現在は認知症専門棟に所属しており、勤続14年目になります。私がどのように考えながら毎日の業務に取り組んでいるかを記させていただきます。

## 業務について

現在、私は介護福祉士として、安全のための見守り・食事介助・排泄介助・入浴介助・日常リハビリ業務・

夜勤業務・日常リーダー業務・入所準備・入所受け入れ・退所準備・退所対応・レクリエーション等々、ご利用者に関わるすべての業務を担当しています。業務にあたる上でご利用者の残存能力を活かしつつ、適正な介護を行えるよう情報の共有やケアの統一化を図り、ご利用者に安心して安全な生活を送っていただけるよう、多職種間で連携して介護にあたっています。

介護福祉士が携わる業務はご利用者の生活全般に関わるが多いため、言動等に注意を払い、日常での小さな気づきで得られた情報を多職種間で共有し、日々のケアにとり入れていけるよう心がけています。

## その人らしさを考えるきっかけ

私が入職した2011年は東日本大震災が発生した年であり、私もテレビでその様子を見ていました。実際に震災を経験していない私が想像する以上の苦労・苦難を経験され、いまなお苦難が続いている方もおられると思います。そんな時代にいかに「その人らしく」生きることができるか、私はどう関わっていけるのか。穏やかだった日常生活のなかで東日本大震災という出来事が起こり、想像もしていなかった苦難に立ち向かわれる方がいるなか、いままでは考えたこともない「らしく生きる」とは一体どういうことなのか。また、ご利用者が「らしく生きる」ために、私たち介護福祉士がどのように関わっていけるのか…。東日本大震災は、こうしたことを考えさせられるきっかけとなりました。

## 「らしさ」とは

「らしさ」とは一体どういう意味なのでしょう。よく使い聞かす言葉ですが、改めて考えると意味の範囲